島根県水産技術センター　漁況情報　令和４年１月 31 日発行

トビウオ通信　（R4 第１号）

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　（TEL 0855-23-4806）

《令和３年漁期前半（8 月～12 月）の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和３年漁期前半（令和３年８月～12 月）の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。１隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業（かけまわし）」と２隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業（2 そうびき）」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業（かけまわし）

１隻当り漁獲量・金額ともに平年並み

島根県の小型機船底びき網漁業（かけまわし）38 隻の令和３年漁期前半（令和３年９月１日～12 月 31 日）の総漁獲量は 1,723 トン、総水揚金額は８億 2,522 万円でした。１隻当り漁獲量は 46 トン、水揚金額は 2,201 万円でともに平年並みでした（平年値：48 トン、2,138 万円）。

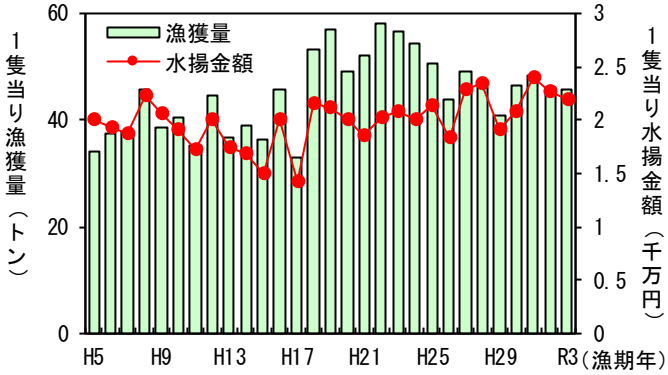

図１　小型機船底びき網漁業における１隻当り漁獲量と水揚金額の動向（各年の９月～12 月）

ソウハチは平年並み、ムシガレイは平年を下回る

主要魚種であるソウハチは１隻当り漁獲量が 7.2 トンで前年・平年の 1.0 倍の水揚げでした。ムシガレイは１隻当り漁獲量が 1.3 トンで、前年の８割、平年の７割の水揚げでした。メイタガレイは１隻当り漁獲量が 0.7 トンで、前年の 1.7 倍、平年の 1.1 倍の水揚げでした。

ケンサキイカは３年続けて低調、ヤリイカも低調

ケンサキイカは１隻当り漁獲量が 0.2 トンで、前年の 1.1 倍、平年の１割となり、記録的な不漁であった前々年（令和元年漁期前半：0.1 トン/隻）以降、低調な水揚げが続いています。一方、ヤリイカは１隻当り漁獲量が 0.4 トンで、平成５年以降で２番目に多かった前年（令和２年漁期前半：4.1 トン/隻）から一転し、前年の１割、平年の２割と低調な水揚げでした。

アンコウ類は好調、アカムツ・キダイは平年並み、ニギスは低調

アンコウ類は１隻当り漁獲量が 5.9 トンで、平成５年以降で最高の水揚げを記録した前年（令和２年漁期前半：7.9 トン/隻）は下回りましたが、平年を上回り、近年好調な水揚げが続いています（前年の７割、平年の 1.3 倍）。アカムツは１隻当り漁獲量が 2.1 トンで、前年の８割、平年の 1.0 倍の水揚げでした。キダイは１隻当り漁獲量が 3.6 トンで、平年の 1.0 倍と平年並み、ニギスは１隻当り漁獲量が 3.1 トンで、平年の７割と低調でした。

その他、アナゴ類は１隻当り漁獲量が 4.0 トンで、前年並みで（前年の 1.0 倍）、平年の 1.2 倍と好調な水揚げでした。マダラは１隻当り漁獲量が 0.9 トンで、前年の５割、平年の２割と低調な水揚げでした。

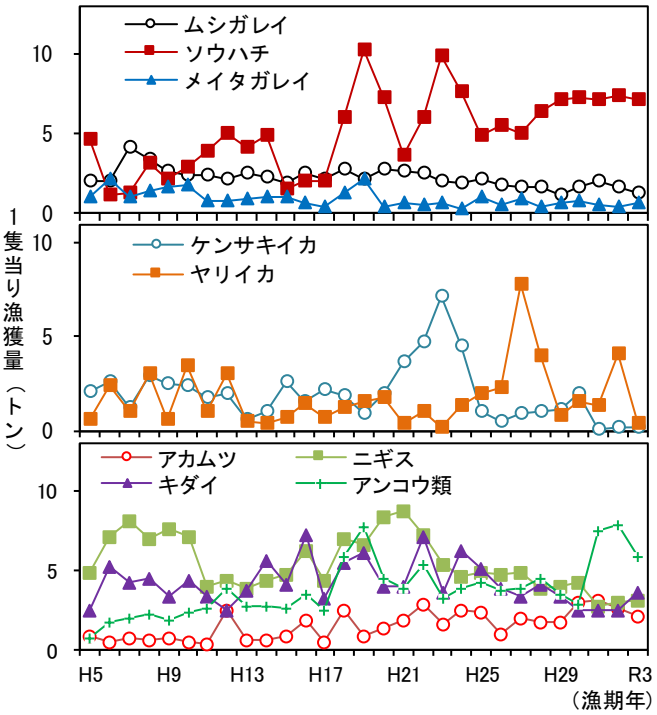

図２　小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向（各年の９月～12 月）

＜文中の語句説明＞
- ☞ 平年は、過去 10 年〔平成 23 年漁期～令和２年漁期の漁期前半(8 月～12 月)〕の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が 110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

沖合底びき網漁業（2 そうびき）

1 統当り漁獲量は平年並み、金額は平年を上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業(2 そうびき)4 統(8 隻)の令和 3 年漁期前半(令和 3 年 8 月 16 日～12 月 31 日)の総漁獲量は 1,171 トン、総水揚金額は 7 億 6,582 万円でした。1統当り漁獲量は 293 トンで平年並み、水揚金額は 1 億 9,145 万円で平年を約 2 割上回りました(平年値:314 トン、1 億 6,168 万円)。

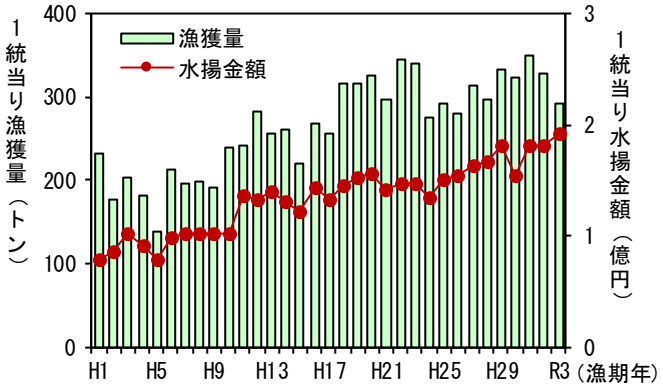

図 3　浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当り漁獲量と水揚金額の動向(各年の 8 月～12 月)

ムシガレイ・ソウハチはともに平年を下回る

主要魚種であるムシガレイは 1 統当り漁獲量が 20 トンで、前年の 7 割、平年の 5 割の水揚げでした。ソウハチは 1 統当り漁獲量が 14 トンで、前年の 5 割、平年の 6 割の水揚げでした。ヤナギムシガレイは 1 統当り漁獲量が 11.6 トンで、前年の 1.5 倍、平年の 1.6 倍と好調な水揚げでした。

ケンサキイカは 3 年続けて低調、ヤリイカも低調

ケンサキイカは 1 統当り漁獲量が 3.8 トンで、前年並みでしたが (前年の 9 割)、平年を下回り(平年の 2 割)、前々年(令和元年漁期前半:2.8 トン/統)以降、低調な水揚げが続いています。

一方、ヤリイカは 1 統当り漁獲量が 0.4 トンで、好調であった前年(令和 2 年漁期前半:27 トン/統)から一転し、前年・平年の 1 割未満と低調な水揚げでした。

キダイは平年並み、アカムツは好調を維持

キダイは 1 統当り漁獲量が 37 トンで、前年を上回るものの、平年並みの水揚げでした(前年の 1.4 倍、平年の 1.0 倍)。アカムツは 1 統当り漁獲量が 46 トンで、前年の 1.3 倍、平年の 1.8 倍と近年好調に推移しています。特に今期は大型サイズ(ノドグロ銘柄)が例年と比較して多く、漁獲量の約 4 割を占めました。

ニギスは 1 統当り漁獲量が 0.3 トンで平年の 1 割未満、アンコウ類は 1 統当り漁獲量が 21 トンで平年の 1.0 倍、アナゴ類は 1 統当り漁獲量が 29 トンで平年の 1.1 倍の水揚げでした。

その他、今漁期は 11 月以降マダラが多く漁獲され、1 統当り漁獲量は 15 トンで、記録的に好調であった前年(令和 2 年漁期前半:23 トン/隻)は下回りましたが、平年を上回る水揚げでした(前年の 7 割、平年の 1.7 倍)。

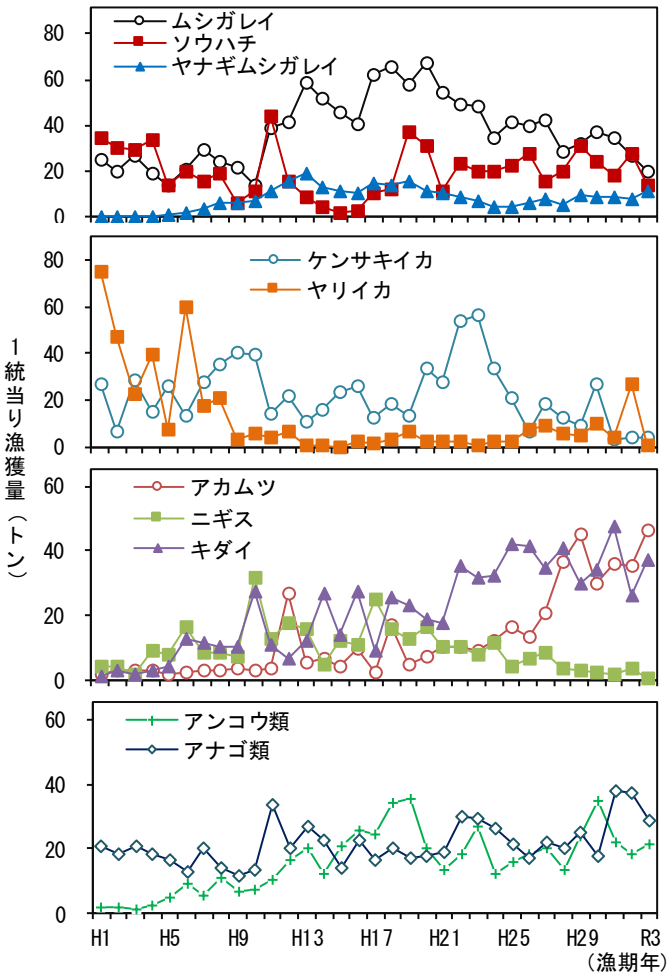

図 4　浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各年の 8 月～12 月)